

植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進

1. 研究目的

植物遺伝資源の二国間共同研究の推進や、有用特性の解明及び国内在来品種等の保全等により、国内外の植物遺伝資源へのアクセス環境を整備し、遺伝資源の利用を促進することを目的とする。

2. 研究背景

地球温暖化が加速する中、我が国の農業の国際競争力強化や国産農産物の安定供給に資する新品種開発には、海外植物遺伝資源の利用が不可欠であるが、途上国を中心とした権利意識の高まりにより導入が困難になっている。

また、我が国の気候風土に適応した在来品種が農業従事者の減少や高齢化により失われつつある。



温暖化によってキュウリ炭疽病が蔓延

3. 研究内容

- ① 海外植物遺伝資源を導入するため、二国間共同研究に基づく共同探索等を実施
- ② 導入遺伝資源から有用特性を発掘するため、国内共同研究により特性評価等を実施
- ③ 国内在来品種等を効率的に利活用するため、地方自治体等と連携して統合データベースを整備

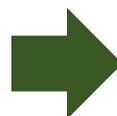


気候変動に対応する多様な植物遺伝資源を導入

4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・ 海外遺伝資源を 3 千点以上保存
- ・ 中間母本等を 5 点以上育成
- ・ 植物遺伝資源保存点数を 3 万点以上増加させる見通しを立てる



期待される効果

- ・ 新規有用系統の素材提供
- ・ 耐暑性・耐病性を備えた新品種の開発
- ・ 国内在来品種の効率的な保存と利活用